

わたしはわたしで

たとえば、

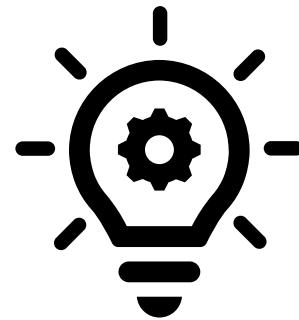
「赤信号は止まれの合図です」と指導する先生が、

実は赤信号を渡っていたなんてことが判明したとしても、

それは生徒が、

赤信号を渡っても良い理由にはならない。

誤りは、正しさあってこそ誤りといえる。

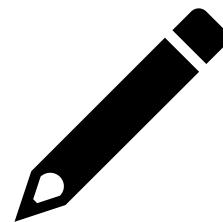


きっかけ感話
【超短編】

vol.49

和而不同

『タイパ家電―毎日忙しいアナタに―』とある広告の見出しである。タイパとは「タイムパフォーマンス」の略語。費やした時間と、それによって得られた満足度との対比を示す、いわゆる「時間対効



若院コラム

果」をいう▼例えば、洗濯乾燥機。「洗濯」に要する一連の時間を短縮することで、その「浮いた」時間を他の行動へ充てることができる。そんな商品を指して、『タイパが良い』と呼ぶそうだ▼SNS動画では、「切り取り版」（要点のみを抽出／編集）が生まれ、映画の「倍速視聴」という言葉すら耳にする昨今。過去に「せまい日本 そんなに急いでどこへ行く」（一九七三年）という有名な標語があるが、現代の『タイパ重視が向かう先』にはどんな景色が待ち構えているだろうか▼日常のこうした焦燥感の背景には、『わかる』の即時化があるはずだ。例えば、検索ひとつで（正誤はさておき）大抵の答えは手に入る。辞書を引くより、人に尋ねるより、思慮するよりも『タイパが良い』▼『わかる』のあたりまえ化は、『わからない』への拒否反応を生じさせる。ゆえに、早急な答えだけを欲してしまうのだろう。「張りぼて思考」によって、行動や言動が薄っぺらいものになってしまっていないだろうか。

恩恵はそのものなくなった場合を
思うことによつて
ハッキリと知らされるものであります。

桐溪 順忍和上

『現代に忘れられてるもの』

教育新潮社 1961

【さいほうじ公式LINE】

月参りやご法事

予約/相談が より便利に



WASHITE DOUZEZU

